



「卒業によせて」

教頭 渡部 透



平成30年度に、秋田県内の特別支援学校高等部3年に在籍する生徒は191人（平成30年5月1日現在～平成30年度学校統計一覧より～）だそうです。

平成23年度からは、毎年200人前後の生徒が特別支援学校の高等部を卒業しています。その高等部を卒業した生徒の進路について過去のデータを見ると、平成25年度以降は毎年約3～4割の生徒が一般事業所に就職し、5～6割の生徒が施設等を利用しています。秋田県の一般事業所に就職する生徒の割合は、全国的にみても高いものになっています。

一般事業所への就職に限らず、県内の特別支援学校は、どの学校も進路指導にたくさんの力を注いでいます。職場開拓を行い、現場実習を依頼し、また、施設利用においても生徒の状況や希望を伝え、何度も打合せを行います。労働機関、福祉行政などとも密に連絡をとります。当然、生徒自身のがんばりや保護者の方々のご協力は不可欠なものです。たくさんの人が関わり、多くの人動き、生徒一人一人の卒業後の生活の充実に備えます。学校時代が楽しかったと保護者の方にも言っていただくこともあります。学校時代の楽しさは思い出として残しつつ、卒業後の長い人生を充実して過ごせるよう、一人一人にあった「自立と社会参加」を目指した進路指導に取り組んでいきたいと考えています。

さて、天王みどり学園からも平成最後の高等部卒業生13名が巣立っていきます。学校という枠を飛び出し、社会という大きな世界で羽ばたいてくれることと思います。小学部から入学した生徒は約4,300日、中学部から入学した生徒はやく2,100日、高等部からの生徒でも約1,000日、天王みどり学園の生徒としてこの学校で学びました。その日々が楽しく、充実した時間であり、これからの人生を支える基盤となったものであったならばうれしく思います。

卒業を意味する英語の『graduate』は、ラテン語の『gradus』が語源だそうです。『gradus』は『a step (足どり)』や『to walk (歩く)』を意味しているそうです。また、『gradus』から派生した単語の一つに『progress (前進する)』があるそうです。「卒業する」ことは「足どり」確かに、前に進み「歩く」ことであると思います。高等部を卒業した皆さんが一人一人にあったペースで、自分なりに前に進み、充実した生活を送ってくれることを願っています。

高等部3年生の進路決定状況

今年度の高等部卒業生の進路状況をお伝えします。



就職（一般就労【潟上市】）

製造業（製造作業【1名】）
（物流作業【1名】）
介護補助【1名】

生活介護

南秋つくし苑【2名】
潟上天王つくし苑【2名】
ふきのとう【1名】

就労継続支援A型

（株）HSS秋田事業所【1名】

就労移行支援

保戸野ハウス【1名】

就労継続支援B型

大潟つくし苑【1名】

夢・究塾明日菜【1名】

（グループホーム：にぎやか倶楽部）

その他【1名】

第15期生 同窓会入会式

3月5日（火）、今年度高等部を卒業する13名の同窓会入会式が行われました。当日は、同窓会会長から励ましと喜びの言葉をいただきました。また、新会員の代表として高等部3年の伊藤健流さんからは、期待と不安でいっぱいであるが、心強い先輩方とともに頑張っていきたいという決意が述べられました。卒業後はそれぞれ自分で選択した道を歩むこととなりますが、時々元気な姿を見せに来てほしいと思います。同窓会活動の主役はもちろん同窓会員一人一人です。みんなで意見を出し合って、楽しく有意義な活動の場になればと考えております。



同窓会を振り返って

今年度の大きな活動は、運動会（5月）、総会・成人を祝う会（8月）、学園祭（10月）の3回でした。運動会や学園祭では、道具運びや会場準備のボランティア活動を行ってくれました。総会では、よりよい会にするために、役員の方々を中心に意見交換が行われました。社会人として活躍される先輩方から良い刺激をいただける貴重な機会にもなっています。



青年学級を振り返って

今年度は4回実施しました。いろいろなことにチャレンジした青年学級です。参加者からは、「また来るね」、「楽しかった」などの感想をいただきました。来年度もたくさんの方のチャレンジや学びが生まれる活動を計画します。卒業生にその都度お知らせをしています。積極的に参加してください。



ボウリング大会